

華嚴より那智へ行くべし群青忌

藤田湘子

「群青忌」は、俳人水原秋櫻子の忌日。七月十七日。

那智の滝を詠った代表句「瀧落ちて群青世界とどろけり」から、湘子は、秋櫻子忌を「群青忌」と名付けることを提唱した。

華嚴も那智も名瀑である。湘子が言いたかったのは何か。虚子、秋櫻子、湘子と続く師系にある我々「鷹」の会員であれば、名句の作られた現場に立とう、ということであろうか。つまり掲句は、湘子の師、秋櫻子恋いの句であると言えるか、と思う。

湘子著『秋櫻子の秀句』では、「瀧落ちて」の句の鑑賞の中で、虚子の句「神にませばまこと美うるはし那智の瀧」に触れていることも興味深い。

1983年 (s.58.07.15作) 第六句集『一個』 鑑賞・野本京